神崎郷土研究会会報＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

神崎の歴史と文化

発　行　神崎郷土研究会
編　集　会報編集委員会
発行日　令和7年3月11日
印　刷　のぐち印刷

ごあいさつ

会長　**實松信子**

令和6年は、元旦の能登半島地震の揺れの中で始まりました。天変地異は暦も人間の思いも関係なく襲ってくるものだと思い知らされました。

この令和6年には、新型コロナが5類に移行され、これまで自粛していた行事等が復活してきています。だが、ごく最近コンゴ民主共和国における「疾病x」なる感染症が取りざたされています。

また、世界各地における、戦乱や紛争、隣国韓国の内政の混乱、アメリカ大統領の交代、身近なところでは、わが国政界における少数与党の混乱など大きな坩堝の中で、我々日本人の在りようが強く問われているように感じます。そういう中で、日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）のノーベル平和賞受賞は、平和希求の流れの1つとして世界が納得する受賞に繋がったものだと思い、地道に運動を続けられた意思の力に敬意を表するものです。

さて、今年、特筆すべきは、会員2氏による研究誌の出版があります。田代高規氏の『少弐氏の運命』並びに藤永正弘氏の『原の町ものがたり』、何れも調査研究を独力で進められ、自費で出版された熱い思いに感服するものであります。

重ねて喜ばしいこととして、田代高規氏は神埼市教育の日に教育功労賞を、また、川原幸八郎氏は神埼郷土研究会の運営に10年以上尽力された功績をもって、文化祭開会式において神埼市文化連盟永年功労賞を、それぞれ受賞されました。

これまでの本会の歴史を振り返ってみます時、先輩会員の皆様の業績に心から敬服せずにはいられません。残された思いを受け継ぎ発展していくためにも、後に続く者としての前進の一歩が期待されているのではないかと思います。

今年は、本会の顧問として神埼市長實松尊徳氏、並びに佐賀城本丸歴史館館長七田忠昭氏に御就任いただきました。お二人の御指導を得て神埼郷土研究会が更に充実発展していくことと心強く思っているところであります。

会員の皆さま、役員の皆さま、どうか様々の識見を発揮していただき本会の発展に御助力くださいますようお願いし、ごあいさつといたします。